

「平成29年度全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立富里中学校】

平成29年4月18日(火)に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の実施結果についてお知らせします。

1 生徒が受けた調査について

「国語A・B」、「数学A・B」、「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

(1) 教科に関する調査

〔主として「知識」〕 国語A, 数学A	〔主として「活用」〕 国語B, 数学B
身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則

(2) 生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/17chousa/17chousa.htm>

2 本校生徒の調査結果

全国公立中学校の平均正答率（以下全国平均）と本校生徒の状況

(1) 教科の調査結果から

国語A（知識）	基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能に関する問題	B
国語B（活用）	基礎的な知識・技能を活用する問題	C
数学A（知識）	数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能に関する問題	C
数学B（活用）	基本的・基礎的な知識・技能を活用する問題	C

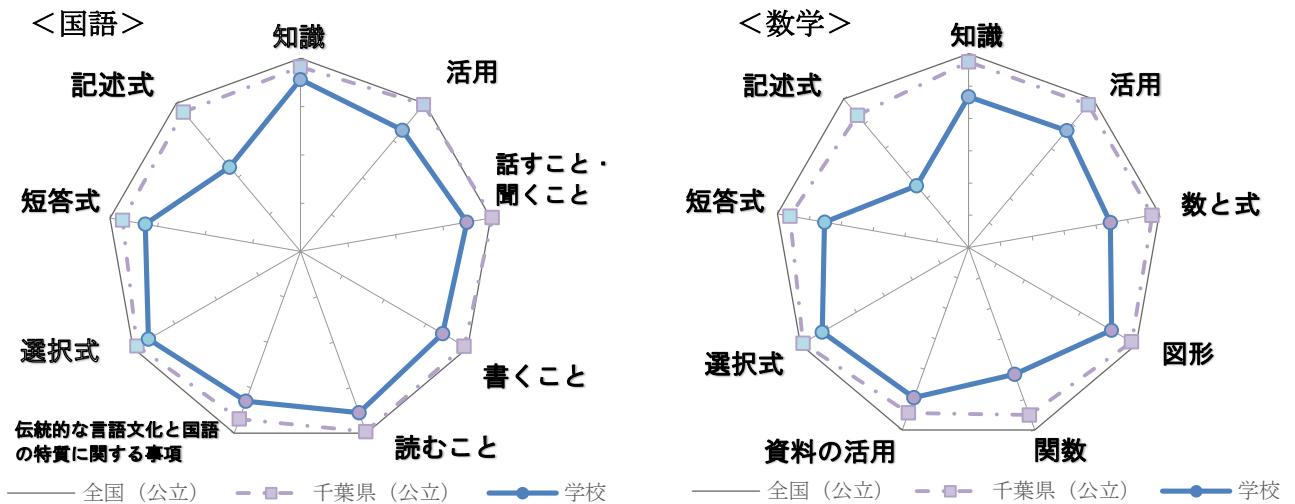
☆ 全国平均正答率との比較について

A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) レーダーチャート



国語の内容は「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」です。数学の内容は「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」です。それぞれ選択式問題、短答式問題、記述式問題があります。

3 結果分析

(1) 学習面について

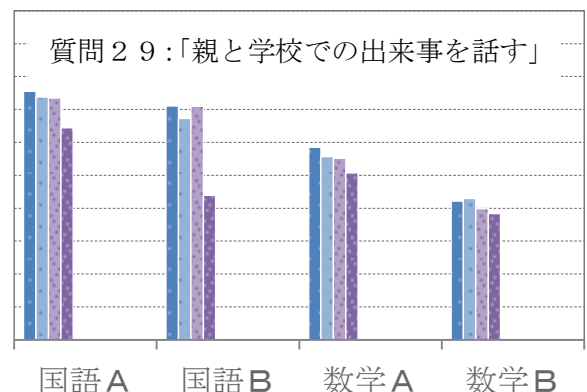
国語は生徒質問紙調査において「教科の関心」が全国平均を上回りました。意欲はあるものの結果に結びついていない状況です。国語Aでは「書くこと」の知識・技能が全国・県平均を上回る結果が出ました。反対に、国語A・B双方とも「伝統的な言語文化」の学習内容が大きく下回っています。文法や古文の復習が必要であると考えます。また、今後の方向性としては、国語Aの短答式の問題が全国平均を下回っているため、文章の抜き出し問題や一問一答式のドリル的な学習をさらに充実させ、基礎学力の向上に努めてまいります。

数学の生徒質問紙調査でも「教科の関心」が全国平均を上回っています。3学年では「習熟度別の少人数学習」を取り入れていることが、個に応じた指導の効果が興味関心につながっていると考えられます。しかし、学習内容においては、「知識」・「活用」とともに全国・県平均を大きく下回っています。その中でも記述式（証明などの説明文章）の内容はさらに下回る結果が出ました。記述式解答の対策として、授業中の小テストや定期テストの中に記述する機会を増やして問題に慣れさせるとともに、小グループでの話し合い活動を生かして自分の意見を発表したり、解き方や考え方を話し合ったりする活動を一層充実させてまいります。

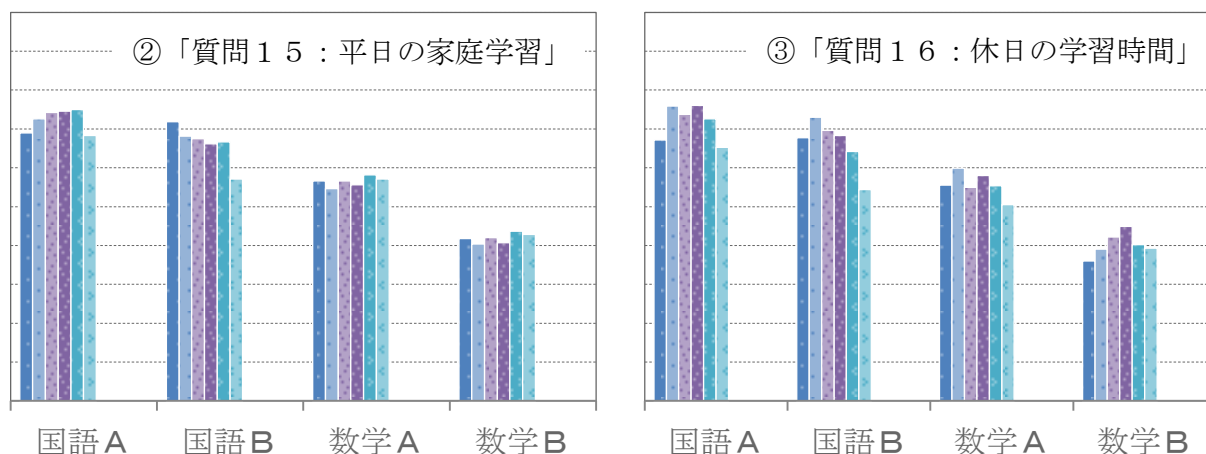
(2) 生徒質問紙調査から

*クロス集計（アンケートの回答と各教科の正答率を表したものを）を活用してまとめました。表の見方はそれぞれ左から「あてはまる」「だいたいあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」を教科ごとに表しています。

家庭で学校生活の話題をする家庭では国語Aや数学Aの基礎学力が定着しています。同様に「スマートフォンやテレビ、ゲームの使用にも家での



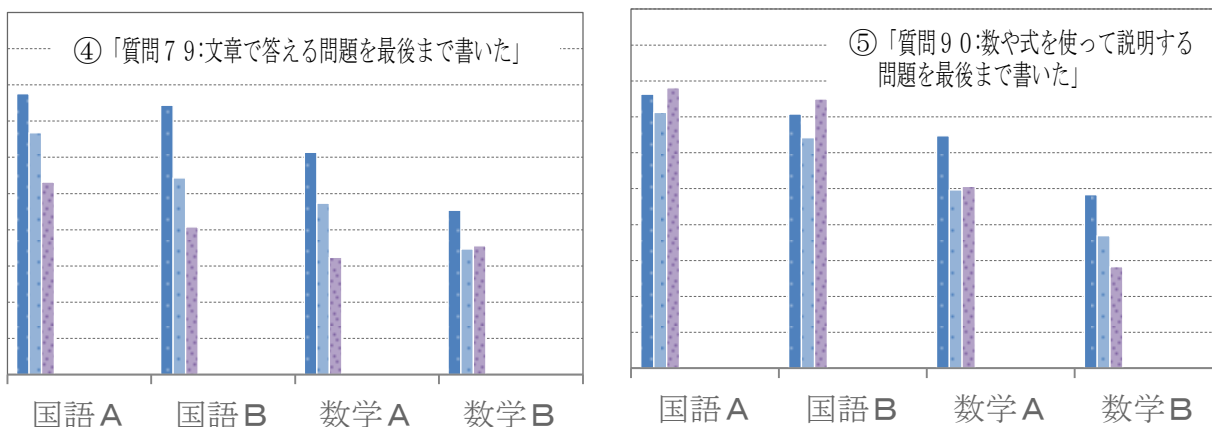
約束事（質問27・28）がある」と回答した生徒の得点が伸びています。家庭の協力や約束が「学力向上の鍵」と思わせる結果です。



*②「質問15」はそれぞれ左から3時間以上、2時間~3時間、1時間~2時間、30分から1時間、全くしないを示します。

*③「質問16」はそれぞれ左から4時間以上、3時間~4時間、2時間~3時間、1時間~2時間、全くしないを示します。

平日の家庭学習は平均1時間以内の生徒が4割弱、休日の学習時間は平均2時間以内の生徒が4割弱という結果が出ました。家庭学習の習慣が身につくよう、各教科で宿題や学習プリントを配付したり、小テストの計画を立てたりして、学校から働きかけていくようにしてまいります。



記述式の問題に対してはあきらめずに意欲的に取り組んでいる結果が出ました。重要語句に目を向け、問われていることを的確にとらえられるような指導を充実させる必要があります。

4 まとめ

本校の課題であった携帯電話やスマートフォンの利用時間は、4時間以上の生徒が1割あるものの、1~3時間利用の生徒の割合が最も多くなり、学校での指導とご家庭でのご協力の成果の一つであると考えます。国語、数学ともに「授業が楽しい」「授業がわかりやすい」「将来役に立つ学習である」「大切である」の質問では肯定的な回答を出した生徒が8割以上いるものの、平均点としては全国及び県の平均を下回っています。生徒が「わかる楽しさ」を味わえるよう、指導法のさらなる改善に努めるとともに、進路学習を活用して生涯学習の観点からの指導を検討したり、家庭学習や学力定着の確認などの機会を増やしたりしてまいります。